

スケート豆知識

明治初期に日本に伝わったとされるスケートが、江戸後期（1792年）にロシアの最初の遣日使節アダム・ラクスマンの一行によりすでに披露されていたことをご存知ですか。ロシアに漂着した伊勢出身の大黒屋光太夫を伴い来航したロシア人が、現在の根室港でスケートをする様子を記録した絵図が、愛知県刈谷市中央図書館に所蔵されています。

日本のスケート発祥は明治10（1877）年に札幌農学校（北海道大学の前身）に伝来したとされていますが、それより以前にスケートが持ち込まれていたことになります。

日本初のスケート伝来の地根室では、スケートは冬のスポーツとして定着し、親しまれています。



「小学生スケート教室」は、冬季のスポーツ振興と体力増進・競技力向上のために、根室市教育委員会と根室スケート協会が開催しているもので、第1回目には50人の子どもたちが参加しスタートしました。準備体操の後、早速スケート靴を履くことになりましたが、お父さんお母さんの手を借りないと靴を履くことができませぬ。防寒服に手袋を整え、いざリンクの上に。真すぐに立つこともできず、四つん這いになりながら練習場所までの集合となりました。全員がそろい、スケートを経験している子どもたちと、

全く滑ることができない子どもたちを班分けする作業に入ります。滑ることができない子どもたちにとっては、リンクの氷は、まさに体の自由を奪い取ってしまう魔法の鏡のようです。足が外に傾く子や



内股になって靴を引きずる子ども、その姿もそれぞれです。氷の上を歩く練習からスタートしましたが、一・二歩で転んでしまい、なかなか前に進みません。転んで泣

きだす子が出るのかと思っていました。子どもたちはへっちゃらな顔でまた立ち上がり。さすが根室の子どもたち。大きな笑い声を発しながら何度も何度も繰り返します。そして、覚えなければならぬ重要なことが転び方。転んだときの、手の扱いや頭を保護する練習を繰り返しますが、驚くほど転び方は上手にできています。

日ごとに最高気温も低くなり、リンクの上は厳しい寒さとなりました。頑張った子どもたちは、氷の上に立ち、ゆっくりと前に進めるようになっていきます。こうなってくるとスケートも楽しくなってきました。追い風や向かい風に、思いとは違う方向に滑り出すことにも、歓喜の声が響きます。

4日目の最終日。まだスケート靴を履くには手を借りてい

ますが、ペンギンの姿はどこにも見当たりません。それぞれが自分のペースに合った指導の中、スケートを楽しむ基本を学んだようです。内リンクから懂れのコースに出ることができた子どもたちの姿を、赤く染まる夕日が、長い影にしてリンクに映し出していま

した。寒い冬の間は、家を出るのも面倒になってしまいがちですが、年齢や男女を問わずに楽しむことができるスポーツが、こんなにすばらしい健康な笑顔をつくることを、子どもたちは教えてくれました。

市民一人1スポーツを目指し「スポーツ・健康都市宣言」を推進！

昭和63年4月10日、根室市は温水プールの落成式で「スポーツ・健康都市宣言」を行いました。

宣言は、市民スポーツの普及、体力づくり、健康増進の観点から「市民一人1スポーツ」を目指し、健康で明るい人間関係を築くためのものです。

市民の皆さんが、年齢・性別・体力・好みに応じたスポーツ活動に参加できるように、宣言以降も幅広い年齢層が参加できるスポーツ教室や各種大会などを開催するほか、市民ニーズに適切に対応できる各種スポーツ指導者の育成・活用などに努めています。

活動施設としては、青少年センターや温水プールをはじめ、総合運動公園にはスケートリンク、パークゴルフ場、テニスコート、サッカー・ラグビー場のほかジョギングコースも設置され、気軽にスポーツに参加できる環境も整っています。

また、学校屋内体育館の一般開放も行い、地域においても利用しやすい環境を整えるとともに、さらに総合型地域スポーツクラブの育成を進めるなど、「市民一人1スポーツ」を推進しています。